

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成28年度第5回武蔵村山市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成29年2月23日(木) 14時00分～15時10分
開 催 場 所	委員会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：野田委員 諸江委員 伊藤委員 菊地委員 牧委員 小野委員 多和委員 阿比留委員 吉澤委員 加藤委員 欠席者：なし 事務局：ごみ対策課長 ごみ対策課主査 ごみ対策課主事 コンサルタント会社((株)杉山・栗原環境事務所)
議 題	1 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画素案の検討について 2 平成29年度の審議会審議日程について 3 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	報告事項2について 第4回審議会の議論を受けて「武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画基礎調査報告書」の修正版の説明を行い承認された。 議題1について 総排出量や資源回収量が減少した原因、資源の持ち去り対策、外国人対策、家庭ごみ有料化などについて議論が行われた。 指標1と指標2の単位は「g」で表記されているが、「g/人日」のほうが正確ではないかとの指摘があり、修正することとした。 次回は第4章以降について案を作成し、議論することとなった。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) ●=委員 ○=事務局等	1 報告事項 (1) 第4回審議会会議録(要旨)について (2) 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画基礎調査報告書について ○ (2)については、資料2を使用し、前回指摘を受けた表現の統一や表の修正、説明を追加した箇所等について説明を行った。 2 議題 議題1 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画素案の検討について ○ 事務局から、資料3を使用し、説明を行った。 [主な意見等] ● 対象となる廃棄物として「あわせ産廃」という用語がある。現行計画には記載はないが、具体的にはどのようなものか。 ○ あわせ産廃とは、市長が一般廃棄物とあわせて処理することが必要と認めた産業廃棄物で、市の条例に記載されている。あわせ産廃は計画に位置づける必要があるので明確化した。具体的には、主に小規模事業所から排出される資源となる容器包装プラスチックである。本来、廃棄物処理法上では、事業所から排出されるプラスチックはすべて産業廃棄物であるが、市が収集した場合、リサイクルが可能なこと、また、小規模事業所では処理費用がかさむため、小規模事業所の救済措置として収集を実施している。 ● 廃棄物処理法に明記されているのか。 ○ 廃棄物処理法にも本市の条例にも明記されている。 ● 資源回収量が減少しているが、減った分はごみになってしまっているのか。 ○ 資源回収量は減少傾向にある。原因は、最も回収量の多い紙が減少していることである。平成17年度には3,637tであったが、平成26年度には2,896tに減少している。インターネットやスマート

フォンなどの影響で、新聞、雑誌などの紙媒体自体が減少していることが原因と考えられる。紙の資源回収量は減少しているが、総排出量、収集量ともに減少しているため、分別が悪くなったとは考えていない。

- 家庭ごみ有料化を導入する基準となる市民1人1日あたりの総排出量を、この審議会で決めたと記憶している。
- 以前の審議会では、市民1人1日あたりの総排出量が一定量を超えた場合には、家庭ごみの有料化を導入することとしていた。現行計画の目標は、平成26年度の改定時に平成29年度の市民1人1日あたりの総排出量を735g/人日と設定しているが、この数値は未達成ということである。指標は100を基準に表記しており、100未満であれば未達成という意味である。
- 資源回収量が減少している原因には資源の持ち去りもあるのではないかと。何度か注意したことがある。
- 資源の持ち去り量は資源量にはカウントされないため、減少の一因である。持ち去りに対してはパトロールで対応している。朝7:00～8:30に4人体制でパトロールを実施しており、見つけ次第、口頭注意している。8:30以降もパトロールをするなど取り締まりを強化している。
- 市民1人1日あたりの総排出量が減少している原因は何か。
- 生ごみの水切り、スーパー等の拠点回収への参加など市民の協力により、人口が増えているにもかかわらず収集ごみ量が減少していると考えられる。また、新聞や雑誌などの紙類自体が減少していることも要因のひとつであると考えられる。
- ごみ量などの実績値は、10年分の数値が示されているが、理由は何か。
- 他自治体の計画等では10年分の数値を記載している事例が多いためである。
- 18ページの表2-8の指標1と指標2の単位はgだが、g/人日のほうが正確ではないか。
- 御指摘の表記に修正する。
- 今後も外国人が市内に移住してくることが考えられるが、中には、言葉がわからない人がいると考えられる。自分のアパートにも外国人が居住しているが、分別カレンダーがわからない人がいる。市が作成している外国人向けのポスターは、多言語で説明されているが、大きすぎてコピーができない。インターネットには日本語以外の表記はなく、説明しても分別がわからないので近所から苦情が来ってしまう。
- 外国人に、ごみの排出ルールを理解してもらうため、日本語以外の情報伝達を拡充することが課題である。手段としては、外国語に対応したごみカレンダーや分別アプリの作成が考えられる。2020年東京オリンピック・パラリンピックで、東京都はごみの出し方を統一し、分別表示について検討する予定であることから、本市も東京都と連携していきたい。
- 計画期間は平成39年度までの10年間であるが、人口推計はあるのか。
- 人口推計は、市の長期総合計画の数値があり、内部ではその先までの人口予測をしている。次回の審議会で示したい。
- 廃棄物処理の課題として家庭ごみ有料化が掲げられているが、慎重に検討するように。
- 現状、多摩地域では、家庭ごみ有料化は26市のうち22市で実施されており、残りの4市のうち、東久留米市と国立市は平成29年度に実施予定である。小平市は平成29年4月の市長選挙後に方針が

	<p>決まると考えられる。</p> <p>議題2 平成29年度の審議日程について</p> <p>○ 事務局から、資料4を使用し、説明を行った。</p> <p>[主な意見等]</p> <p>● 特になし。</p> <p>議題3 その他</p> <p>○ 特になし。</p>
--	---

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>	傍聴者： <u> 0 </u> 人
-----------------	---	---------------------

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
------------------	---

庶務担当課	協働推進部	ごみ対策課(内線：293)
-------	-------	---------------

(日本工業規格A列4番)